

常務理事会から

さらなる発展の基盤づくり

先の選挙で常務理事に選出され、総務を担当することになりました。長谷川理事長を補佐しながら学会運営の舵取りをすることが役割ですので、改めてその責任の重さを痛感しています。以下では、本学会の現状と活動を、常務理事会で検討されている事柄を中心に紹介させていただきます。なお、他の常務理事の役割分担は以下の通りです（敬称略）。佐藤隆夫（学術）、横田正夫（認定）、佐藤達哉（広報／学術）、仲真紀子（国際）、阿部恒之（財務）、宮谷真人（編集）。これらの先生方には、次号以降、このコラムに登場していただくことになっています。

さて、4年前に公益社団法人として新たなスタートを切った日本心理学会は、公開シンポジウムや高校生向けの心理学講座を各地で開催するなど、心理学の普及にこれまで以上に力を注いできました。多くの会員の協力により、これらは学会活動の目玉の一つとして根付きつつあります。また、来年7月に横浜で開催されるICP2016の準備にも全力をあげています。本学会にとっても、心理学ワールド全体にとっても、この会議を成功裏に終わらせることが今後の発展に大きく寄与することは言うまでもありません。前者は日本社会に向けて、後者は世界の心理学ワールドに向けて、日本の心理学のプレゼンスを高めるよい機会になるはずです。

高校生向けの講座を心理学への「入口」を整備することとすれば、大学教育の「出口」付近の整備にあたるのが、認定心理士資格を取得した人たちへのアフターサービスです。大学で心理学の基礎的な知識を得た人は、実社会の中で広く心理学の理解を促す貴重なメッセンジャーと考えることができます。常務理事会では、認定心理士資格創設25周年を機に学会の下部組織として認定心理士の会（仮称）を創設することを決定し、現在、その準備を急いでいます。今後は、学会のサポートのもとでこの会が活動を進める中で、認定心理士取得者が大学で学んだ心理学の理解をさらに深めたり、心理学の最新の研究について情報を得ることができるようになります。また、同じく準備を進めている「心理調査士」の資格認定も、大学で心理学を

学び、さまざまな問題の理解や解決の方法を身につけた学生が、自信と自覚をもって社会で活躍することを後押しするものです。今後、この二つの資格を両輪に、心理学が社会との関わりを深めていくことが望まれます。

本学会が進めてきたこうした活動の根幹は、当然のことながら会員の研究活動です。機関誌については、編集委員会の構成も含めて活性化のためのさまざまな工夫がなされてきました。これについては、以後の号で担当常務理事から詳しい説明があると思います。また、多くの会員が参加する年次大会に関しても、主催校の負担を出来る限り少なくすると同時に参加者が会場で快適に過ごせる環境を用意するための方策を講じてきました。一方、一つの大学が大会運営を担うことは次第に困難になりつつあります。これからは有志による小規模な準備委員会でも十分に運営が可能となるように、学会側がサポート体制を整えておくことが不可欠です。既に学術大会委員会が設置されていますが、その活動内容を明確にすることも含めて作業を進めていきたいと思っています。

これまで述べてきた活動以外にも、学会としてやるべき事柄は山積しています。活動を安定的に継続していくためには、既存の組織の改編や新たな組織作りが欠かせません。現在、常務理事会では専門領域と地域を関連づけてさまざまな「部会」を設置する方向で検討が進められています。将来的には、特定の部会が年次大会の準備委員会の核となったり、公開シンポジウムや高校生向けの心理学講座を開催したりすることになるかもしれません。部会が学会活動の一部を自律的に担うことによって、学会全体が活性化することが期待できます。

会員の皆様には、是非、心理学の発展を目指す本学会の活動の一翼を、さまざまな形で担っていただければと思います。ご自身の研究活動や実践活動を個別学会、各大学、地域で行っている会員の方々は、それらを本学会の活動と重ね合わせることによって、より効率的かつ効果的に実践できることもあります。皆様方のご協力を切にお願いする次第です。

（総務担当常務理事・東洋大学教授 安藤清志）